

ばいじん違法搬入

高島市、改ざん隠し要請

伊賀市は協議白紙に

【伊賀】滋賀県高島市が、ばいじんに含まれるダイオキシンの検査値を改ざんしていることを隠し、伊賀市に処理を要請していたことが十七日、分かった。このばいじんについては、三重中央開発（伊賀市予野鉢屋）が処理を請け負うことで、両市が事前協議を済ませていたが、伊賀市は

「検出値の改ざんを知らされていなかった」とし、協議を白紙とした。伊賀市などによると、高島市は先月十五日、未処理となっている市環境センター（同市今津町）のばいじんについて、三重中央開発での処理に向けた事前協議を求める書類を伊賀市に提出。条例に基づき、地元区

長への報告や審査委員会の承認を経て、今月上旬に協議が完了した。しかし、高島市は事前協議の段階で、伊賀市に対し、ばいじんを同社に搬出する経緯を「ダイオキシンが基準値を超えたことがあり、処分場の管理者に搬入を断られた」などと説明するにとどまり、検出値を改

ざんしていたことを伝えていなかった。この問題をめぐっては、高島市では国が定める基準値の最大で十七倍のダイオキシンが含まれるばいじんを、全て基準値内であると報告し、神戸市沖の処分場に違法に搬入していた。しかし、改ざんが発覚して以降、同処分場に持ち込みを

拒否されたため、伊賀市に処理を持ち掛けていた。

伊賀市は十二日の新聞報道で検出値の改ざんを知り、高島市に協議を白紙に戻すことを伝えた。伊賀市環境政策課は「相手が自治体だったこともあり、説明を信じ切っていた。高島市が設置予定の第三者調査委員会の調査結果を踏まえ、今後の対応を検討する」と説明。岡本栄市長は「（検出値の改ざんは）あってはならないことだ」と批判し

た。一方、高島市環境政策課は「担当者が対策会議中

コメントをきなら」とコメントしている。
（海住真之）